



JE16. Affidavit on documentary evidence.

(32)

Title of document: 「木戸幸一日記」 **The Diary of KIDO Kouichi**, the last volume.

Dated: February 1942

Character of document: This document is a part of Emperor Showa's words on 12 February 1942, when he spoke to the Prime Minister TOJO Hideki about the administration of occupied territories and foreign relations. This shows that the Emperor knew the corruption of military discipline, and that accordingly the Emperor must have received a report as to what kind of measures were being taken to prevent it (e.g. the establishment of "comfort stations").

Location of the part concerned within the document: p945 (see also: YAMADA Akira 'A Supreme Commander: Emperor Showa'on p184)

Quote:

'.....also if prolonged the quality of the army would naturally become worse as well.....'

I hereby swear on this 15th of October 2000, that the information contained above is accurate and the quotation genuine.

YOKOTA Yuuichi



昭和十七年

午後七時、西園寺不^三氏来邸、面談。

二月六日(金)晴

午前九時、安藤京都府知事来邸、地方の事情を聴く。

十時、深澤氏を訪ひ書^二を治^一す。

十一時二十分より十二時五分迄、拝謁す。

一時、甘露寺次長来室、昨日拝謁の際申上たる大東亜戦、容易に終結せざるべく、結局建設を含む戦争を徹底的に戦ひ抜、ことこそ平和に至る捷徑なりとの余の論に対し、御心境を皇后陛下に御洩し被遊れたる由にて、次長より話ありたり。

二時半、小川平吉氏逝去につき同邸を吊問す。

三時半、山下龜三郎氏来邸、面談。

六時、紅葉館に於ける六日会に出席、帰途新宅に立寄り富田愛次郎氏夫妻と会ふ。

二月七日(土)晴

午前十時半出勤。セレス海軍の落下傘部隊進撃のニュース映画を小倉事務官の計ひにて観る。

出勤前九時、北川長次郎氏来邸、身上の件につき相談ありたり。

三時、官邸に至り、下園佐吉氏と面談。

二月八日(日)晴

午前十時、廣瀬久忠氏、同十二時、清水澄博士来訪、何れも面

談。

午後三時、時乘武雄君来訪、面談。

午後六時、瀧川氏、伊藤博通氏、同夫人を招き、新宅も加はり会食す。

二月九日(月)晴

午前九時、北川長次郎氏来訪、身上の件なり。

十一時半より十二時十分迄、拝謁す。

二時半、小川平吉氏告別式に参列の上帰宅、夕食は母上、和子と共に新宅に至り御馳走になる。

二月十日(火)晴

午前九時、招建一甫氏来訪、青年の動向等につき聴く。

十時半出勤。

三時、東條首相参内、拝謁後面談す。

三時半帰宅、^(宮地)田裏二君、新夫人(聖子)を伴ひて来訪、面談す。

二月十一日(水)晴

午前九時半、賢所参集所に参入、紀元節祭典に参列す。

シンガポールの攻撃は進展し、今早曉同島の最高地、フキテマを占領せりとの報を聴く。

三時、坪島(文雄)武官、武官長の代理としてシンガポール攻略の際、南方軍総司令官(寺内壽一)並に聯合艦隊司令長官(山本五

十六)に賜るべき勅語案を持参、承認を求めらる。披見の上サインす。

二月十二日(木)晴

午前十時二十分より十一時五分迄、拝謁す。其際一昨日東條首相拝謁の際、今後の内外の施策につき大本営聯絡会議にて研究する旨奏上したるが、右につき大体左の様に話して置いたとの仰せありたり。

戦争の終結につきては機会を失せざる様充分考慮し居ることとは思ふが、人類平和の爲にも徒に戦争の長びきて惨害の拡大し行くは好ましくならず。又長引けば自然軍の素質も悪くなることでもあり、勿論此問題は相手のあることでもあり、今後の米英の出方にもよるべく、又独ソの間の今後の推移を見極めるの要もあるべく、且又、南方の資源獲得処理についても中途にして能く其の成果を挙げ得ない様でも困るが、それ等を充分考慮して遺漏のない対策を講ずる様にせよ。

二時、東條首相参内、拝謁後面談。

一旦帰宅、四時、深澤氏を訪、前歯に義歯を入る。和子同伴。

二月十三日(金)晴

午前九時、後藤文夫氏来訪、司法部廣清、大政翼賛会の事情等につき話を聴く。

午後一旦帰宅し、二時、鶴子同伴、大竹(虎雄)氏夫人(彌子)の

昭和十七年

告別式に参列す。

二月十四日(土)晴

午前十時、賀陽宮邸に伺候、家職(金萬小三郎)を以て、姫宮様御縁談の御慶びを言上す。それより出仕。

午後一時半、東條首相参内、面談。

周雄退院、上京来訪、一泊す。

午後五時半、三笠宮邸に伺候、両殿下(崇仁親王・百合子)に拝謁、晚餐の御陪食を被仰付。食後、殿下に第三次近衛内閣辞職前後よりの政情其他を御説明申上、種々御下問に奉答、八時半退下、帰宅す。

二月十五日(日)雪

夜半より雪となり相当積りたり。

終日在宅、三時頃、倉茂氏来り治療を受く。

午後九時、東條首相より電話にて、マレー方面より入電あり、左の如くシンガポールは陥落せりとの報あり。

軍は本十五日十九時五十分シンガポール要塞の敵軍を無条件降服せしめたり。

杉山総長は十時参内、上奏する筈、自分は明日議会にて予て御許を得たる声明をなす積りなり、との話あり。皇軍の神速果敢なる行動により、斯くも短時日の間にシンガポールを陥落せしめたるは真に感激の至なり。

九四五

九四四

210-8



人名索引

- 1) 本索引には『木戸幸一日記』上・下巻を通じ、政治上の関係で登場する人物のすべて、および職名で記されている個人を指すことの明らかなもの全部をとりあげ、これらをフルネームで収録して、該当頁を掲げた。
- 2) 天皇については、とくに昭和15年以降においては、ほとんど毎頁に言及されている。しかし、本『日記』において占める天皇の位置を考慮し、天皇の言動に関する記述のある場合に限り、該当頁を掲げることにした。
- 3) 排列の順は電話番号方式によった。ただし、名のみの方が必ずしもすべての人について明らかなので、同姓の場合には、便宜初出の先後にしたがって排列した。



木戸幸一日記 下巻

1966年7月20日 初版発行
1984年5月25日 6刷発行

横印施止

©著者 木戸幸二
校訂者 木戸日記研究会
代表 岡義武
発行者 田中英夫

発行所 財団法人 東京大学出版会

東京都文京区本郷 東大橋内・電話(811)8814・振替東京6-59964

大日本法令印刷・矢崎製本 30128

ISBN4-13-030012

ア

- アキノ (B. S. Aquino) 1102-3
アチソン (D. G. Acheson) 1241
アパイオン (Kuang Aphaiwong) 1180
アンリ (C. A. Henri) 818, 861, 873
安達謙藏 47, 50, 70, 107, 111, 113, 116, 119-20, 124, 154
安倍源基 595, 606, 624, 630, 650, 657, 664, 667, 679, 682, 691, 695-6, 703, 708, 722, 741-2, 744-5, 750, 761, 765, 767, 773, 776, 790, 792, 796, 799, 800, 808, 810, 819, 824, 829, 832, 835, 839, 843, 854, 870, 877, 888, 895, 904, 909, 913, 933, 938, 951, 971, 987, 1001, 1020, 1039, 1067, 1072, 1093, 1107, 1114, 1118, 1128, 1146, 1154, 1161, 1165, 1173, 1177, 1184, 1195-6, 1199, 1201, 1205, 1207, 1210, 1215, 1218, 1222, 1224, 1226-7
安藤清種 50, 71, 78, 98, 110, 112, 151, 301, 608, 1116
安東義良 964
安藤輝三 452
安藤正純 621
安藤狂四郎 695, 703, 706-17, 719-20, 722-4, 727-35, 737-43, 745-6, 750-1, 761, 773, 780, 784, 788, 792, 799, 810, 819, 831, 836, 856, 860, 869, 887, 904, 909, 923, 944, 949, 955, 961, 964, 969, 972, 982, 987, 998, 1007, 1016, 1023, 1040, 1042, 1063, 1076, 1193, 1139, 1228, 1257
安藤紀三郎 1023-4, 1029, 1031, 1033, 1037, 1040, 1050, 1052, 1102, 1107, 1115, 1130
阿南惟幾 555, 645, 732, 780, 799, 801, 803-4, 812, 823, 842, 866, 868, 1025, 1067, 1095, 1143-4, 1178, 1182, 1184, 1186, 1189, 1196, 1199-201, 1204, 1211-2, 1224-5
阿部信行 121, 277, 281, 466, 533, 535, 677, 679, 683, 696, 703, 712, 721, 729, 733, 738, 742-5, 747, 756-7, 764-7, 769-74, 776, 779, 816, 832, 834, 838-9, 843, 854-5, 875, 891-2, 903, 911, 915, 917-8, 927, 936, 938, 947, 959, 964, 996, 1004, 1009, 1017, 1026-8, 1038, 1058, 1069, 1074, 1078, 1080, 1095, 1107, 1112, 1116-7, 1119-29, 1132-3, 1194-5, 1236, 1239
阿部嘉輔 179
阿部知二 1006
相川勝六 386, 709, 845, 867, 876, 895,

210-6